

令和元年度介護事業所における要介護度改善促進事業 表彰チーム一覧

○事業内容

介護事業所における利用者の要介護度の維持・改善や自立応援型介護の実現を促進させるため、先駆的で優秀な改善の取り組みを行ったチームを表彰し、その取り組みを県内事業所に普及させることにより、介護職員の技能向上やイメージアップを図る。

○表彰チーム 7チーム（応募 23 チーム）

区分	所属法人	事業所名	チーム名	テーマ	表彰理由
施設系	(福)双和会	ガーデンハイツ春江(従来型)	「ガーデンハイツ春江本館」	もう一度、口から食べたい！	口から食べるようになることに対する喜びを目的として、胃ろうから経口摂取へ移行するプログラムを役割分担しながら職員一丸となって改善に向けたアプローチを行うことができた。
	(福)足羽福祉会	愛全園(ユニット型)	「ユニット個別ケアチーム」	利用者様本位の楽しみのある生活に向けた自立支援介護の実践	利用者ひとり一人の目標と方向性をしっかりと設定し、多職種で科学的根拠に基づいた実践を行い、チーム全体で自立支援に取り組んだ。
	(福)大野和光園	大野和光園(ユニット型)	「荒島」	寝たきりにさようなら	ユニット全員に対して排便に必要な7つのケアの取り組みを実施することにより、おむつでの排便ゼロを確立し、外出(園外散歩)につないだ。
	(有)なるざ	グループホームとものいえ	「自分のかばんを使う生活」	認知症になっても、自分の持ち物は自分で管理しよう	認知症高齢者の主体性を身近な「かばん」を用いて自己管理するという点に着目したユニークな取り組みである。入居者同士のコミュニケーションの活性化が見られ、職員の業務改善にも結びつけている。
通所系	福井県民生活協同組合	県民せいきょう 羽水きらめきデイサービス	「ADL 向上委員会」	利用者の目標実現と家族の心の声を聞く	利用者の「社会貢献したい」という潜在意識に焦点をあて、達成度を「見える化」することによって共有し、取り組んだ達成感や喜びをサービスの満足度につないでいる。
	(医)健康会	いちごデイセンターみのり	「おでんくん」	1から作る秘伝のおでん	「おでんを作る」という日常生活行為に焦点をあて、野菜作りから料理までのプロセスを通して、コミュニケーションの活性化やモチベーションの向上、在宅での生活の活性化にもつないでいる。
	(医)千寿会	アルマ千寿	「アルマ千寿通所リハビリ one team」	通所リハビリにおける、男性利用者の余暇時間の有効的活用	男性の利用者に着目し、地域性や利用者にあった取り組みの立案と環境調整を実施することで、デイサービスの利用を促すとともに、他施設でも参考にもなり得る取り組みとなっている。